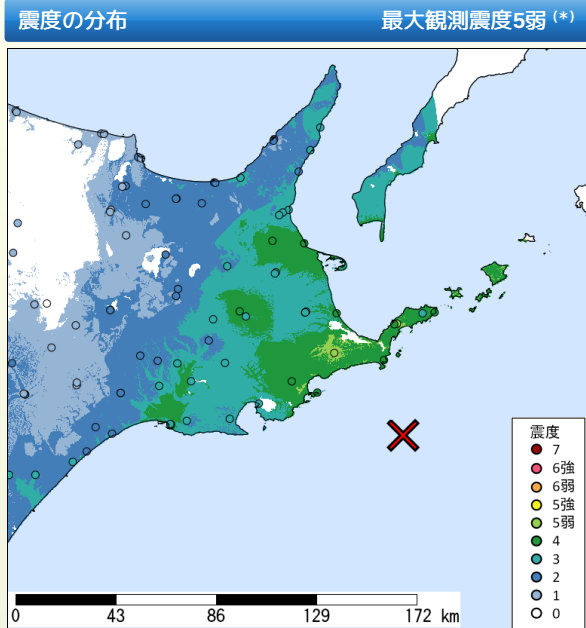


M 5.9, 震源地:根室半島南東沖, 深さ約40km, 2025/10/25 01:40頃発生 (気象庁発表)



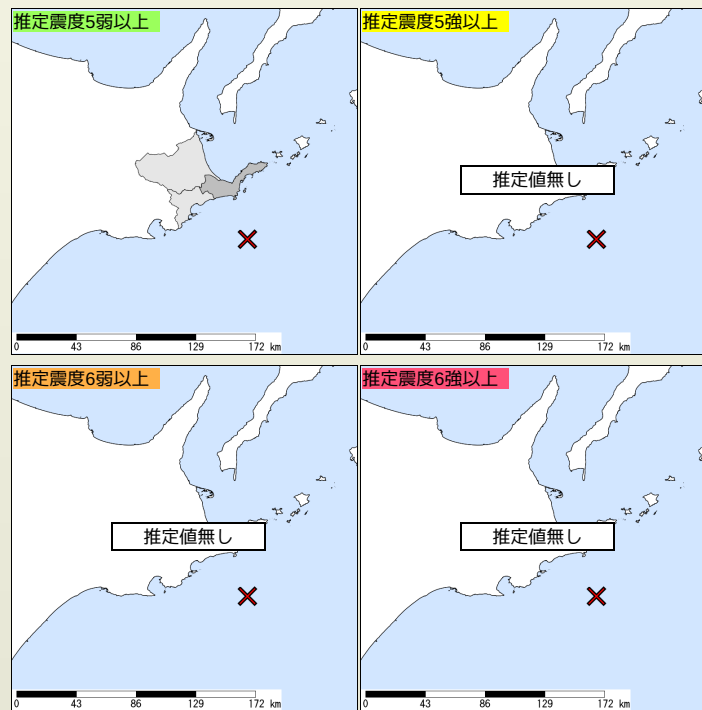
解析開始時点(2025/10/25 01:50:33)で収集されている防災科研K-NET, Kik-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

主要都市の推定震度 (都市の最大観測震度と人口を考慮して掲載)

最大(*) 観測震度	推定震度頻度分布	市区町村名	全人口: 夜間 (人)	震央距離 (km)
5弱	1 2 3 4 5-5+6-6+7	北海道根室市	27,000	48
4		北海道釧路市	170,000	99
3		北海道標津郡中標津町	24,000	89

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度になるよう四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



行政区名	震度5弱以上 遭遇人口	震度5強以上 遭遇人口	震度6弱以上 遭遇人口	震度6強以上 遭遇人口
全国	2,000			
北海道	2,000			
北海道根室市	2,000			
北海道厚岸郡浜中町	1,000未満			
北海道野付郡別海町	1,000未満			

全国および震度遭遇人口の多い都道府県と市区町村について掲載。震度遭遇人口が1~999人の場合は1000未満と表示。全国、都道府県の値は、市区町村の値の合計と必ずしも一致しない。

補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生年	地震名	M	被害
1843	釧路・根室	7.5	厚岸国泰寺で被害があった。津波があり、全体で死46、家屋破壊76、戸にも津波。松前・津軽で強く感じ、江戸でも有感。
1894	根室沖	7.9	根室・厚岸で家屋・土蔵に被害。死1、家屋潰12、津波は宮古4.0m、大船渡1.5mなど。
1961	釧路沖	7.2	釧路付近で家屋の一部破壊11、木橋全壊1、その他小被害。
1973	根室半島南東沖(根室半島沖地震)	7.4	根室・釧路地方に被害。全体で傷26、家屋全壊2、一部破壊1。小津波があり、波高は花咲で2.8m、浸水275、船舶流失沈没10。また、6月24日の余震(M7.1)で傷1、家屋一部破壊2。小津波があった。津波の規模[0]
1993	釧路沖(釧路沖地震)	7.5	わが国では11年ぶりの震度6を釧路で記録、死2、傷967、建物や道路の被害もあった。北海道の下に沈み込む太平洋プレートで発生した深さ約100kmの地震で、この型の地震としては例外的に規模が大きかった。

出典：国立天文台編「理科年表 平成29年」、丸善出版(2016)。一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布

再現期間50000年相当の計測震度分布

